

2026年6月17日
株式会社日立製作所

先進 AI を活用したモダナイゼーションの加速とサイバーセキュリティ強化に向けて OpenAI との連携を本格化

- ・ 日立と OpenAI の Forward Deployed Engineers(以下、FDE)が、レガシーシステムのモダナイゼーションを支援する AI ソリューションの開発を開始。金融機関をはじめ、幅広い産業分野への展開をめざす。
- ・ OpenAI の「Trusted Access for Cyber」を通じて、社内セキュリティ強化を実践。この活動で得られた知見を基に、サイバーセキュリティの強化をめざす。
- ・ OpenAI との連携を通じて、モダナイゼーション・サイバーセキュリティ領域における日立の FDE ケイパビリティの向上と、HMAX の高度化を推進。

株式会社日立製作所(以下、日立)は、このたび OpenAI との連携^{*1} を本格化し、モダナイゼーションの加速とサイバーセキュリティ強化を推進します。OpenAI の先進的な AI 技術と、日立のミッションクリティカルなシステムや社会インフラを支えてきたドメインナレッジ・ノウハウを掛け合わせることで、お客さまや社会の AI トランスフォーメーション(AX)を加速させます。

両社の FDE が連携し、OpenAI の AI エージェント「Codex」を活用することでミッションクリティカルなレガシーシステムのコードを解析し、設計の可視化を通じて安全な移行を支援する AI モダナイゼーションアプローチの確立に取り組みます。本アプローチを基に、基幹システムのモダナイゼーションを支援するソリューションを開発し、金融機関をはじめ幅広い産業向けに順次展開していく予定です。

また、日立は、OpenAI の「Trusted Access for Cyber(TAC)」^{*2}を通じ、OpenAI のサイバーセキュリティ向け AI モデルへのアクセスを取得する予定です。本取り組みは、OpenAI が発表した「日本サイバー・アクションプラン」の一環として、高度な AI 能力を信頼できる防御側の関係者に責任ある形で届け、日本の重要分野におけるサイバーレジリエンス強化を支援するものです。日立は、OpenAI の Daybreak に基づく防御重視のフレームワークのもと、適切な安全策、ガバナンス、人間による監督を前提に、修復・検証など正当な防御目的での活用を検討していきます。本取り組みを通じて、日立のセキュリティ専門組織である「Cyber CoE」は、自社内で実践する「カスタマーゼロ」として日立が提供するシステムの検証を推進するとともに、得られた知見を今後のサイバーセキュリティ強化に活用していきます。

そして日立は、本取り組みを通じて、モダナイゼーションやサイバーセキュリティ領域における日立の FDE ケイパビリティの向上につなげるとともに、AI で社会インフラの革新を実現する次世代ソリューション群「HMAX by Hitachi(以下、HMAX)」のさらなる高度化へと生かしていきます。

これらにより、日立はお客さまの強靱なシステム構築・運用を支援し、社会インフラ領域における AX の推進を支えています。

*1 2025年10月21日 プレスリリース: [日立と OpenAI、グローバル AI データセンター拡大を軸とした戦略的パートナーシップに合意](#)

*2 2026年2月5日 OpenAI 発表: [Trusted Access for Cyber のご紹介](#)

背景

日立と OpenAI は、2025 年 10 月に覚書(MoU)を締結して以来、HMAX をはじめとする日立の Lumada ソリューションの強化に向け、OpenAI の先進的な AI 技術の活用検討を進めてきました。現在、多くの企業において、熟練エンジニアの引退などによるレガシーシステムのブラックボックス化が AX の課題のひとつとなっています。また、サイバーセキュリティを取り巻く環境が変化する中で、高度な防御体制の構築が急務となっています。そうした背景を受けて、このたび、基幹システムのモダナイゼーションやサイバーセキュリティの強化において、AI を活用したお客さまや社会の課題解決に向け、取り組みの本格化に至りました。

取り組み内容

(1) AI モダナイゼーション手法の確立と提供

企業のレガシーシステムのモダナイゼーションの支援に向けて、両社の FDE が連携し、OpenAI の AI エージェント「Codex」の高度な解析力と、日立のミッションクリティカルなシステム開発ノウハウを組み合わせます。既存コードをもとにした上流仕様の可視化から、新システムへの移行テストに至るまでの一連のプロセスについて、AI を活用した信頼性の高いアプローチの確立をめざします。今後、モダナイゼーション事業の統括・推進を担う「Modernization CoE」が中核となり、本アプローチを活用した AI ソリューションを開発するとともに、「モダナイゼーション powered by Lumada」^{*3}に組み込み、金融機関をはじめとした幅広い産業のお客さまへと順次提供していく予定です。

*3 2025 年 10 月 21 日 プレスリリース: [AI ネイティブな基幹システムへ刷新する「モダナイゼーション powered by Lumada」を提供開始](#)

(2) 次世代サイバーセキュリティ環境の検証・強化

日立は、OpenAI の Trusted Access for Cyber(TAC)を通じ、OpenAI のサイバーセキュリティ向け AI モデルへのアクセスを取得する予定です。本取り組みは、OpenAI が発表した「日本サイバー・アクションプラン」の一環として、高度な AI 能力を信頼できる防御側の関係者に責任ある形で届け、日本の重要分野におけるサイバーレジリエンス強化を支援するものです。日立は、OpenAI の Daybreak に基づく防御重視のフレームワークのもと、適切な安全策、ガバナンス、人間による監督を前提に、脆弱性の特定、優先順位付け、修復・検証など、正当な防御目的での活用を検討していきます。日立は、本活用を通じて得られた知見を、今後のサイバーセキュリティ強化に活用します。

(3) 実践的な FDE 育成と HMAX の高度化

日立は、本取り組みを通じて、モダナイゼーションおよびサイバーセキュリティ領域に強みを持つ日立の実践的な FDE ケイパビリティの向上をめざします。また、本取り組みを通じて得られた知見は、日立の AI 社会実装を牽引する専門組織「Frontier AI Deployment Center」がハブとなり、順次、HMAX へと統合し活用されます。これにより、日立は、HMAX を継続的に高度化し、お客さまへの提供価値を最大化していきます。

日立製作所 執行役社長兼 CEO 徳永 俊昭のコメント

日立は長年、ミッションクリティカルな社会インフラを支えるシステム開発に携わっており、その数は国内だけでも約 15,000 に及びます。レガシーシステムのモダナイゼーションとセキュリティ向上は、AI 時代の持続的な成長に向けた、すべての企業にとって重要な経営課題です。この極めて大きな課題解決に向けて、OpenAI と共に、安全で信頼性の高い社会インフラの革新に取り組めることを誇りに思います。日立は OpenAI との連携をさらに深化させ、両社の FDE の知見を活用して Lumada や HMAX を継続的に強化し、お客さまや社会の AX の加速に貢献してまいります。

OpenAI Japan 合同会社 代表執行役社長 長崎 忠雄氏のコメント

日立との取り組みは、AI を日本の重要な産業・社会インフラにおいて、より安全かつ実践的に活用していくための重要な一歩です。OpenAI は、AI がすべての人々に利益をもたらすよう、安全で有益な AI の開発と展開に取り組んでいます。レガシーシステムのモダナイゼーションや、防御を目的としたサイバーセキュリティ領域での AI 活用は、日本企業の事業基盤を強化するうえで不可欠なテーマです。今回の連携を通じて、企業が安心して AI を活用し、新たな価値を創出できる環境づくりを後押しするとともに、AI が人々や組織の可能性を広げ、これからの社会を支える実践的な力となるよう取り組んでまいります。

関連リンク

[HMAX | Lumada : 日立](#)

商標注記

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エネルギー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの4セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略SIBビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025年度(2026年3月期)売上収益は10兆5,867億円、2026年3月末時点で連結子会社は606社、全世界で約29万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.com/ja-jp/をご覧ください。

お問い合わせ先

株式会社日立製作所

AI&ソフトウェアサービスビジネスユニット

<https://www.hitachi.co.jp/it-pf/inq/NR/>